



心不全と薬

～なぜ薬を飲まなければいけないのか？～

高知大学医学部附属病院 薬剤部

高知大学大学院

川田 敬



本日のお話

- ▶ 心不全になれば複数の薬を飲む必要があります
- ▶ なぜ薬を飲まなければいけないのでしょうか？
- ▶ 薬を飲む時には何を気をつければよいのでしょうか？
- ▶ 本日は薬剤師の立場から、薬を飲まなければいけない理由や飲む時の注意点などについてお話させていただきます



心不全とは

- ▶ 心臓がポンプ機能としての役割を果たしていない状態（心臓の機能不全）





なぜ薬が必要か？

- ▶ 残念ながら現在の医療では心不全は治らないため、いかに心臓の機能を維持することが大切です
- ▶ 心臓の状態に合わせて心機能をサポートするため薬を飲む必要があります

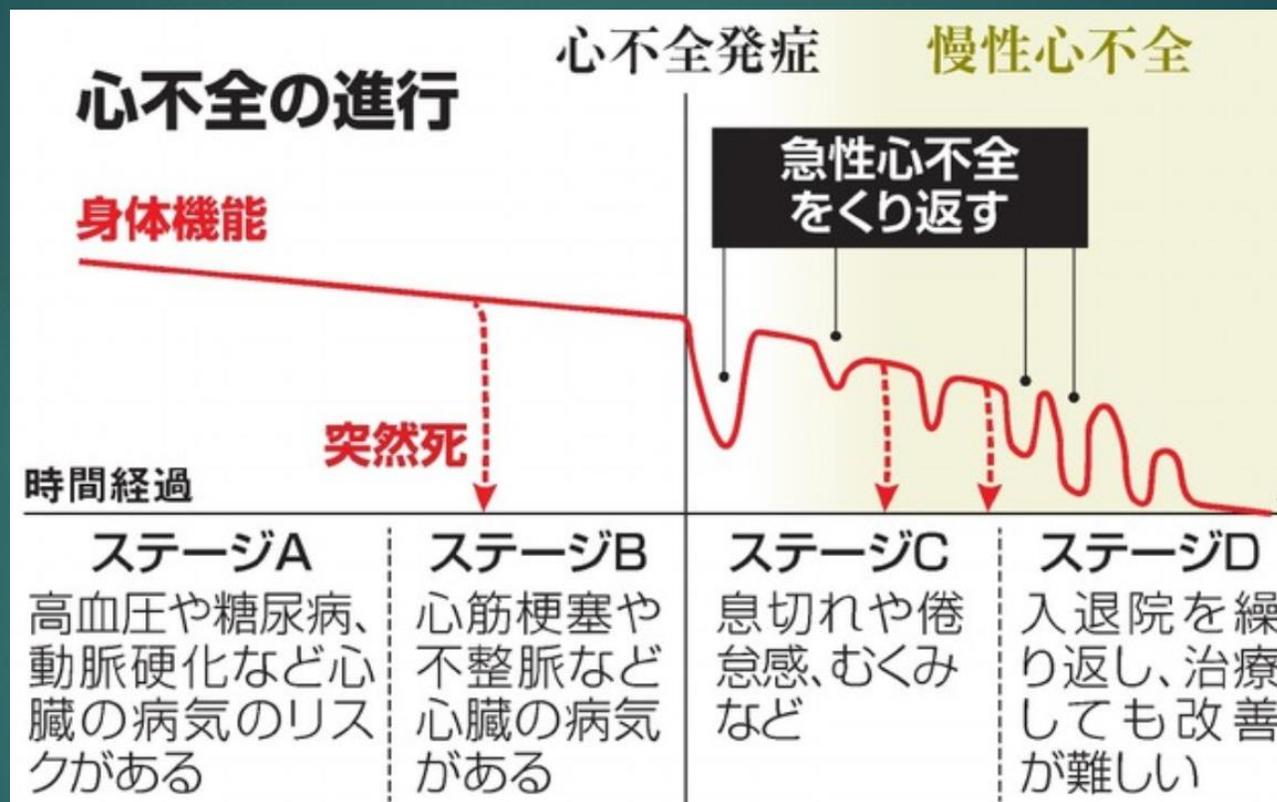


心不全治療薬の目的

- ▶ 心不全治療薬には大きく2つの目的があります
 1. 心不全を予防する
 2. 心不全症状を改善する



ステージによる目的の違い



心不全を予防

症状を改善



心不全治療薬



心不全治療薬

- ▶ 心不全の薬には4つのタイプに分けられます
- ▶ これらの薬は効能が似ていても作用する場所がそれぞれ異なり、複数の薬を併せて服用する場合もあります



薬を使う順番

心臓を力づける薬

心臓を楽にする薬

心臓を休ませる薬

心臓を保護する薬

ごく軽症

軽症

中～重症

非常に重症



心臓を保護する薬

- ▶ 血圧を上げるホルモンの働きを妨げることで血圧を下げ、心臓を保護します
- ▶ 心不全の初期の段階から使われます
- ▶ 血圧が高い人だけでなく、血圧が正常～やや低めでも心臓を保護するために使われます
 - ▶ ACE阻害剤（エナラプリルなど）
 - ▶ ARB（カンデサルタンなど）
 - ▶ 抗アルドステロン薬（スピロノラクトン）
 - ▶ 降圧剤（アムロジピンなど）



心臓を休ませる薬

- ▶ 心臓の弱くなった機能を補うために、交感神経という神経の働きが活発化しています
- ▶ しかし長期間このような状態が続くと心不全が増悪していきます
- ▶ 交感神経を抑えて血圧を下げたり、脈を遅くしたりすることで心臓の負担を軽くします
- ▶ 少量から始めて徐々に増量していくと心臓の働きがよくなっていきます
 - ▶ β 遮断剤（カルベジロール、ビソプロロール）



心臓を楽にさせる薬

- ▶ 心臓の働きが弱くなると腎臓への血流が悪くなり尿が出にくくなります
- ▶ 体に水が溜まり、むくみや息苦しさといった症状と出現し、心臓にも負担がかかります
- ▶ 体の余分な水分を尿として排出させます
- ▶ むくみや息苦しいなど、うっ血による症状を改善させます
 - ▶ ループ利尿剤（フロセミド、アゾセミドなど）



心臓を力づける薬

- ▶ 心不全が進行してくると心臓を動かす力が弱くなってきます
- ▶ 心臓の筋肉に作用して、血液を送り出すポンプ機能を強くします
 - ▶ PDEⅢ阻害薬（ピモベンダンなど）



新しい心不全治療薬 ～ARNI～

- ▶ 血圧を下げて心臓への負担を軽くし、心臓を守るホルモンの量を増やして、むくみなどの症状を改善する薬です
- ▶ 既存薬からARNIに替えることで入院が約20%減ったというデータがあります



新しい心不全治療薬 ～SGLT2阻害薬～

- ▶尿から糖を排泄させる薬です
- ▶血糖値を下げ、体の余分な水分や塩分を排出させる作用があります
- ▶心臓を保護する作用があります



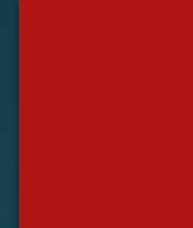
新しい心不全治療薬 ～イバブラジン～

- ▶心拍数を下げる薬です
- ▶心拍数が下がると心臓を休ませることができるので、心臓の機能の維持・回復につながります
- ▶心拍数だけを下げるため、よりきめ細かい治療が可能になります



新しい心不全治療薬

- ▶ 近年、新しい効果がある薬（HCNチャネル遮断薬、sGC刺激薬）もぞくぞく発売されています
- ▶ 今後、より良い心不全治療薬が開発されていくことが期待されています



薬を飲む時の注意点



薬を飲む時の心構え

- ▶ 心不全になると心臓の機能を維持させることが大切です、薬はその機能をサポートするために重要です
- ▶ 心不全治療薬は飲んでいない間しか効果がありません
- ▶ 自己判断での薬の中断はけっして行わないようにしてください



新しい薬を飲む時は

- ▶ “痛み止め”や“風邪薬”の中には腎臓の機能を落とし、体に水分が溜まりやすくし、心不全の悪化を助長する可能性があります
- ▶他にも心臓の働きを弱め、心不全を悪化させる危険性がある薬があります
- ▶新しく薬を飲む際には、循環器医師や薬剤師にご相談ください



きちんと薬が飲めない時には

- ▶薬の数が多かったり服用タイミングが複雑だと、薬を飲み忘れたり、間違ったりしやすくなるということが分かっています
- ▶“薬の数が多い”、“飲み忘れる”と感じたら
- ▶薬を一つの袋にまとめる、回数を減らすなど工夫ができるかもしれません
- ▶医師やかかりつけ薬剤師にぜひご相談ください



ご家族が心不全になった場合

- ▶ 心不全患者のうち、薬をきちんと飲めないで心不全が悪化する方が10～20%程度ほどになります
- ▶ 高知県（6施設）で行った研究(YOSACOI研究)でも、認知症の方、喫煙している方、男性が薬を飲むことを忘れる傾向があります
- ▶ 特に認知症の方では1週間に1回以上、家族が関わることできちんと薬が飲めるようになる可能性があります



まとめ

- ▶ 心不全になったら心臓の機能を維持するために薬は必要不可欠です
- ▶ 多くの心不全治療薬が開発されており、今後さらなる治療効果が期待されています
- ▶ 薬はきちんと服用することが肝要です
- ▶ 確実に薬を服用できるよう、気軽に薬剤師にご相談ください